貝塚市遺跡群発掘調査概要33

2011. 3. 31 貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北西は大阪湾に面し、東南は和泉葛城山を有する山間部であり、北西から東南に長くのびる市域形状を呈しています。

今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、開発とともに発展してきました。急速な 開発は、自然環境に多大な影響を与え、さらに地下に眠る埋蔵文化財も消滅の危機に 瀕しています。

埋蔵文化財は、私たちの歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない 貴重な情報を提供してくれます。この貴重な情報を記録保存することにより将来の文 化の向上発展に活かしていく必要があります。

近年、文化財を活用する取り組みが盛んに行なわれています。埋蔵文化財において も情報や資料の活用を図り、普及啓発に努めていきたいと考えています。

本書は、平成22年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築等に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史・文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導・ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するとともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成23年3月31日

具塚市教育委員会 教育長 西 敏 明

- 1. 本書は貝塚市教育委員会が平成22年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。なお、遺物整理の都合から一部、平成21年度調査についても掲載している。
- 2. 発掘調査は平成22年4月1日より実施し、平成23年3月31日に終了した。調査は三浦基、木嶋崇晴が行なった。
- 3. 本書の執筆・編集は三浦基、木嶋崇晴が行なった。
- 4. 出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。
- 5. 本書の第3章においては、貝塚市教育委員会が平成9年に国庫補助金を受けて実施した埋蔵 文化財緊急発掘調査について、概要報告書に一部掲載できなかった調査を掲載している。

凡例

- 1. 図 $5 \sim 18$ の調査図面については、調査地位置図は縮尺 1/5,000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。
- 2. 本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1990 年度版を用いた。
- 3. 貝塚市遺跡分布図については、山間部の一部は掲載していない。

目 次

はじめに	
例 言、凡 例	
目 次(本文目次、挿図	図目次、図版目次、表目次)
第1章 平成22年発掘調査	査の概要
第2章 調査の結果 …	5
1. 王子遺跡	2009 - 27区 5
2. 王子遺跡	2009 - 30区 5、6
3. 沢遺跡	2009 - 33区 7
4. 秦廃寺	2009 - 34区
5. 麻生中遺跡	2009 - 31区 8、9
6. 地蔵堂廃寺	2010 - 10区
7. 貝塚寺内町遺跡	2009 - 32区10
8. 貝塚寺内町遺跡	2010 - 2区10、11
9. 貝塚寺内町遺跡	2010 - 14区 10、11
10. 貝塚寺内町遺跡	2010 - 16区10、11
11. 貝塚寺内町遺跡	2009 - 38区11
12. 貝塚寺内町遺跡	2010 - 12区
13. 貝塚寺内町遺跡	2010 - 15区13
第3章 平成9年の調査	

插図目次

- 図1 貝塚市遺跡分布図
- 図2 調査地位置図
- 図3 調査地位置図
- 図4 2009 27 区
- 図 5 2009 30 区
- 図 6 2009 33 区
- 図7 2009 34 区
- 図8 2009 31 区
- 図9 2010-10区
- 図 10 2009 32 区
- 図 11 2010 2 区
- 図 12 2010 14 区
- 図 13 2010 16 区
- 図 14 2009 38 区
- 図 15 2010 12 区
- 図 16 2010 15 区
- 図17 調查地位置図(平成9年)
- 図18 調査地位置図(平成9年)

図版目次

- 図版 1 王子遺跡 (2009 27 区)
 - 王子遺跡 (2009 27 区)
 - 1. 2009 27 区 完掘状況(南東より)
 - 2. 2009 27 区 地層断面(北東より)
- 図版 2 王子遺跡 (2009 30 区)
 - 王子遺跡 (2009 30 区)
 - 1. 2009-30 区 第1区完掘状況 (北西より) 図版 16 貝塚寺内町遺跡 (2010 15 区)
 - 2. 2009-30 区 第2区完掘状況(西北より)
- 図版 3 沢遺跡 (2009 33 区)
 - 1. 2009 33 区 完掘状況 (北東より)
 - 2. 2009 33 区 完掘状況(北西より)
- 図版4 秦廃寺(2009-34区)
 - 1. 2009 34区 完掘状況 (東より)
 - 2. 2009 34区 完掘状況(西より)
- 図版 5 麻生中遺跡(2009-31区)
 - 1. 2009 31 区 完掘状況 (南東より)
 - 2. 2009 31 区 完掘状況(北西より)
- 図版 6 地蔵堂廃寺(2010-10区)
 - 1. 2010 10区 完掘状況 (西より)
 - 2. 2010 10 区 完掘状況 (西より)

- 図版7 貝塚寺内町遺跡(2009-32区)
 - 1. 2009 32 区 完掘状況 (北より)
 - 2. 2009 32 区 調査区1 完掘状況(北より)
- 図版8 貝塚寺内町遺跡(2010-2区)
 - 1. 2010 2区 完掘状況(西より)
 - 2. 2010 2区 地層断面(西より)
- 図版 9 貝塚寺内町遺跡 (2010 14 区)
 - 1. 2010 14 区 完掘状況 (北西より)
 - 2. 2010 14 区 地層断面(南西より)
- 図版 10 貝塚寺内町遺跡 (2010 14 区)
 - 1. 2010 14区 完掘状況(西より)
 - 2. 2010 14 区 地層断面 (南西より)
- 図版 11 貝塚寺内町遺跡(2010-16区)
 - 1. 2010 16 区 完掘状況(北より)
 - 2. 2010 16 区 地層断面 (南より)
- 図版 12 貝塚寺内町遺跡 (2009 38 区)
 - 1. 2009 38 区 鐘楼検出状況 (南西より)
 - 2. 2009 38 区 鐘楼検出状況(北西より)
- 図版 13 貝塚寺内町遺跡(2010-12区)
 - 1. 2010 12 区 南築地塀側溝調査区検出状況 (西より)
 - 2. 2010-12区 南築地塀側溝調査区完掘状況(北西より)
- 図版 14 貝塚寺内町遺跡 (2010 12 区)
 - 1. 2010 12 区 南築地塀側溝調査区完掘状況(南西より)
 - 2. 2010 12 区 南築地塀側溝調査区完掘状況 (北東より)
- 図版 15 貝塚寺内町遺跡 (2010 15 区)
 - 1. 2010 15 区 SD-1001 検出状況(南より)
 - 2. 2010 15 区 SD-1001 検出状況 (北東より)

 - 1. 2010 15 区 遺構検出状況(東より)
 - 2. 2010 15 区 遺構検出状況 (南西より)
- 図版 17 貝塚寺内町遺跡 (2010 15 区)
 - 1. 2010 15 区 SD-1001 掘削状況(南東より)
 - 2. 2010 15 区 SD-1001 地層断面(北東より)
- 図版 18 貝塚寺内町遺跡 (2010 15 区)
 - 1. 2010 15 区 SD-1002 検出状況 (西より)
 - 2. 2010 15 区 SD-1002 地層断面(西より)

表目次

- 表1. 平成22年国庫補助事業一覧
 - (平成22年1月~12月)
- 表 2. 平成 9 年国庫補助事業一覧

第1章 平成22年発掘調査の概要

平成22年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は195件、遺跡外試掘調査依頼は14件である。

届出・通知にかかわる対応について、確認調査は22件、立会調査は68件、慎重工事は101件、府にて対応は1件、99条にかかる発掘調査は3件である。

届出及び通知の総件数および依頼の件数は、年々減少傾向にある。長引く不況等の社会情勢を反映しているものと考えられる。

分譲住宅の件数は 40 件であり、減少傾向にある。その要因としては、宅地造成の件数の減少、開発規模も縮小しており、分譲住宅の届出件数に反映されているものと考えられる。

個人住宅の届出件数は64件であり、前年と比較して増加している。このうち発掘調査は13件である。

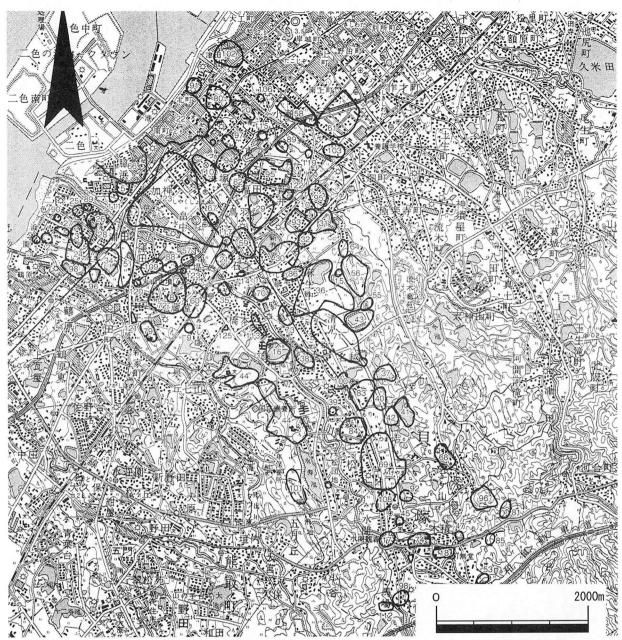
住宅以外の開発は、宅地造成6件、共同住宅5件、店舗1件、福祉施設2件である。宅地造成、店舗は前年と比較して減少傾向である。

また、個人住宅や共同住宅において地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行なう事例もあり、埋蔵文化財の破壊が懸念される。

遺跡範囲外においての開発は14件であり、前年に比べ減少傾向である。その目的は宅地造成8件、共同住宅1件、工場0件、福祉施設1件、店舗1件、その他3件である。遺跡範囲外での開発については、宅地造成の減少が著しい。 今年度の遺跡範囲の拡張、新規の遺跡発見についてはなかった。

遺跡名	調査番号	遺跡略号	開 発 地
(平成 21 年度)			
1王子遺跡	2009 - 27	OG	堤 16-9
2王子遺跡	2009 - 30	OG	堤 16-18、23-4
3麻生中遺跡	2009 - 31	AN	麻生中 999-7
4貝塚寺内町遺跡	2009 - 32	JN	西町 682、674-1、681-3
5沢遺跡	2009 - 33	S	沢 531-16
6秦廃寺	2009 - 34	HT	半田 730 の一部
7貝塚寺内町遺跡	2009 - 38	JN	中 846
(平成 22 年度)			
8貝塚寺内町遺跡	2010 - 2	JN	中 1529-6
9地蔵堂廃寺	2010 - 10	GZZH	地蔵堂 748-1
10貝塚寺内町遺跡	2010 - 12	JN	中 846
11貝塚寺内町遺跡	2010 - 14	JN	西町 569-14、569-24
12貝塚寺内町遺跡	2010 - 15	JN	中 846
13貝塚寺内町遺跡	2010 - 16	JN	北町 456、846-8

表 1. 平成 22 年国庫補助事業一覧(平成 22 年 1 月~ 12 月)



1. 沢新出遺跡 2. 沢海岸遺跡 3. 沢遺跡 5. 長楽寺跡 7. 地蔵堂丸山古墳 8. 地蔵堂廃寺 9. 下新出遺跡 10. 秦廃寺 15. 麻生中新池遺跡 16. 河池遺跡 17. 水間寺遺跡 18. 木積観音寺跡 20 堀遺跡 21 橋本遺跡 22. 貝塚寺内町遺跡 23. 加治・神前・畠中遺跡 24. 明楽寺跡 25. 沢共同墓地遺跡 26. 沢西出遺跡 27. 沢海 岸北遺跡 28. 沢城跡 29. 新井・鳥羽遺跡 30. 新井ノ池遺跡 31. 半田遺跡 32 麻生中遺跡 34. 澱池遺跡 35. 積善寺城跡 36. 清児遺跡 37. 集原池遺跡 38. 高井天神廃寺・高井城跡 39. 森城跡 40. 森B遺跡 41. 森ノ大池遺跡 42. 森A遺跡 43. 二ツ池遺跡 44. 千石堀城跡 45. 水間墓地 46. 三ケ山城跡 47. 片山墓 地 51. 窪田遺跡・窪田廃寺 53. 坊城遺跡 54. 三ツ松遺跡 55. 槍ヶ谷城跡 56. 半田遺跡(清児地区) 57. 堤 遺跡 58. 小瀬五所山遺跡 59. 石才遺跡 60. 王子遺跡 61. 土生遺跡 64. 海岸寺山遺跡 66. 脇浜遺跡 67. 今池遺跡 68. 三ケ山遺跡 69. 三ケ山西遺跡 70. 石才南遺跡 71. 名越遺跡 72. 地蔵堂遺跡 73. 名越西 遺跡 74. 木積遺跡 75. 新井・鳥羽北遺跡 78. 沢西遺跡 79. 王子西遺跡 80. 津田遺跡 81. 三ケ山オニ谷遺 跡 82. 福田遺跡 83. 森下代遺跡 84. 三ツ松北垣外遺跡 85. 薬師池西遺跡 86. 麻生中出口遺跡 87. 小瀬遺 跡 88. 堤三宅遺跡 89. 沢新開遺跡 90. 沢タナジリ遺跡 91. 堀新遺跡 92. 橘池遺跡 93. 麻生中下代遺跡 94. 堀秋毛遺跡 95. 半田北遺跡 96. 沢老ノ塚遺跡 97. 東遺跡 98. 馬場遺跡 100. 鳥の池西遺跡 101. 白地 谷遺跡 102. 津田北遺跡 103. 久保遺跡 108. 水間二ノ戸遺跡 109. 窪田ハマデ遺跡 110. 海塚遺跡 111. 脇 浜川端遺跡 112. 馬場笹力遺跡 113. 橋本野岸ノ下遺跡 114. 麻生中薬師堂遺跡 115. 谷池遺跡 116. 小瀬大 道端遺跡 117. 石才通井口遺跡 118. 海塚宝伝遺跡 119. 小瀬与九郎遺跡 120. 王子大イケダイ遺跡 121. 王 子ヨウサ遺跡 122. 半田ヨコマクラ遺跡 123. 堤西浦遺跡 124. 木積下代遺跡 125. 橋本原宮遺跡

図1 貝塚市遺跡分布図(部分・貝塚市域のみ)



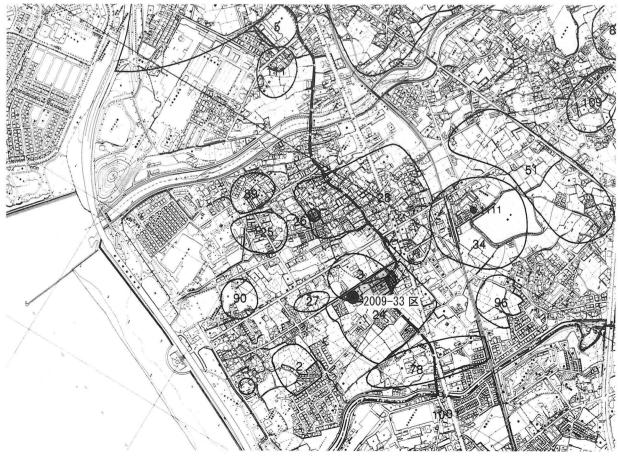
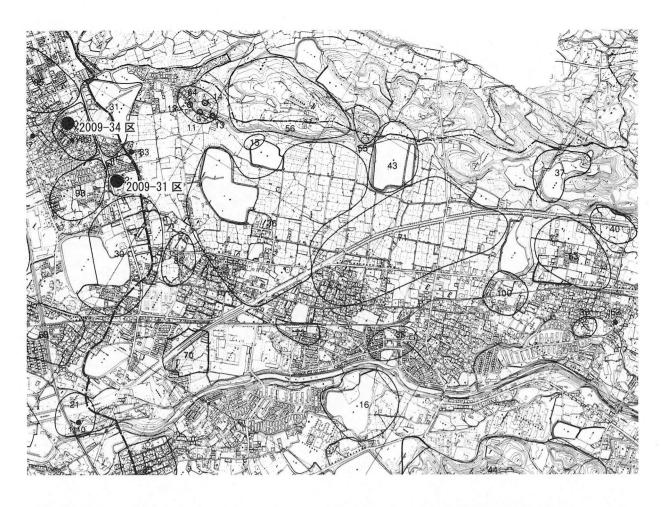


図2 調査地位置図



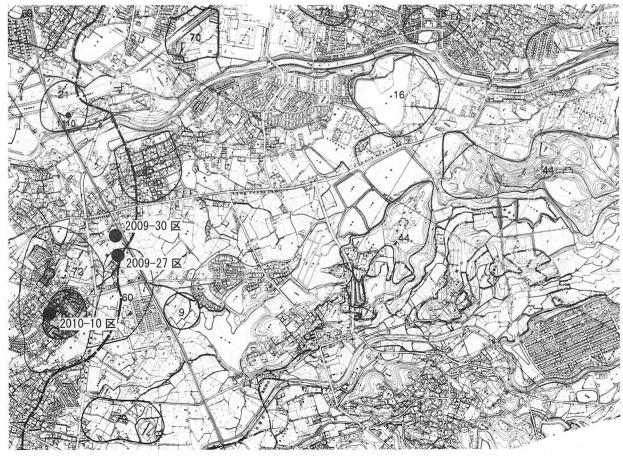


図3 調査地位置図

第2章 調査の成果

1. 王子遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上に位置する。周知の遺跡として、古墳時代〜近世にかけての集落跡と推定している。本遺跡は、熊野街道の南東側に位置しており、沿道に形成された中世集落跡が認められている。本市において昭和60年度(1985年)に発掘調査を実施しており、掘立柱建物3棟・井戸1基・溝7条等の鎌倉時代を中心とする遺構を検出している。

本遺跡の西に位置している地蔵堂遺跡では、本市の調査により5世紀後半~末にかけての円墳2基・方墳1基を 検出している。地蔵堂遺跡は、4世紀末の築造と推定される前方後円墳である地蔵堂丸山古墳、平安時代の創建と 考えられる地蔵堂廃寺も包括している。

2009 - 27区の調査

本調査は、堤16-9において実施した。調査は、申請地内において調査区(4.5 m²)を設定して行なった。 調査区の層序は、1・2層が盛土、3層はにぶい黄色土、4層は灰黄褐色小礫混じり砂質土、5層は褐灰色粘質シルト混じり粗砂、6層は灰黄褐色粗砂である。6層より湧水が著しいため、地山は検出できなかった。

3層は土師器、瓦器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。4層上面と5層上面において遺構検出を 行なったが、遺構は検出できなかった。4層以下は、粗砂を主体とする河川堆積層と考えられ、遺物が出土してい ないため埋没時期は不明である。申請地周辺は、中世に耕地として開発されたものと推測される。(木嶋)

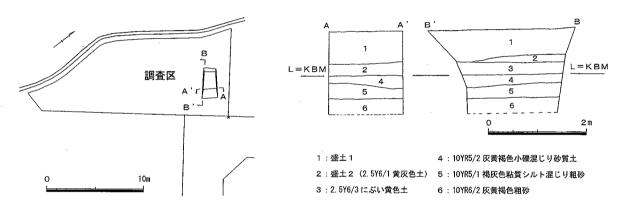


図4 2009-27区

2009 - 30区の調査

本調査は、堤 16 - 18、23 - 4 において実施した。調査は、申請地内において 2 箇所の調査区(計 12 ㎡)を設定して行なった。

調査区1の層序は、1層が盛土、2層は地盤改良土、3層はにぶい黄色土混じり黄灰色土、4層は黄灰色砂混じり粘質土、5層は黄灰色粗砂混じり粘質土、6層は明黄褐色ブロック土混じり灰白色砂質土、7層は黒褐色粘土、8層は褐灰色粘土、9層は灰色粗砂、10層は灰白色粗砂、11層は浅黄色粘土混じり灰白色粗砂、12層は明黄褐色砂礫混じり粘土~粘質シルト(地山)である。

3層から5層より土師器、瓦器、瓦、須恵器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。5層上面において遺構検出を行なったが、遺構は確認できなかった。3層から5層は土質の観察により耕地層と考えられる。

6層はブロック土が多く混在しており、整地層の可能性がある。6層より下層では遺物は出土していない。地山面において遺構検出を行ない、流路の一部を検出した(調査区1:流路1)。

7層から 11 層は流路堆積層である。 7層は黒褐色粘土を主体としており、滞水状態であったと考えられ、流路 1 は流水と滞水を繰り返して埋没したと推測される。

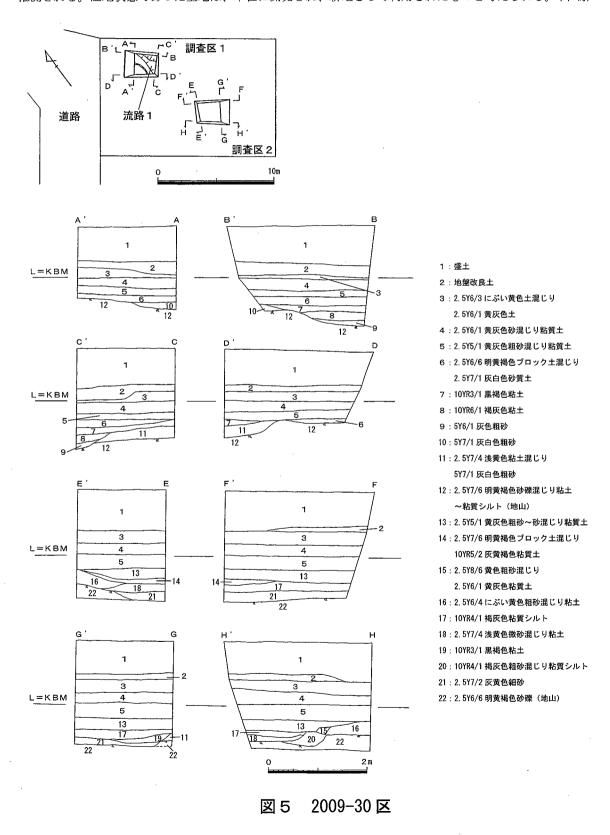
調査区2の層序は、1層から5層は調査区1の堆積層と対応する。13層は黄灰色粗砂~砂混じり粘質土、14層は明黄褐色ブロック土混じり灰黄褐色粘質土、15層は黄色粗砂混じり黄灰色粘質土、16層はにぶい黄色粗砂混じり粘土、17層は褐灰色粘質シルト、18層は浅黄色微砂混じり粘土、19層は黒褐色粘土、20層は褐灰色粗砂混じり粘質シルト、21層は灰黄色細砂、22層は明黄褐色砂礫(地山)である。

3層から5層、13層より土師器、瓦器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。13層については、ブロック土は混入していないが、整地層の可能性がある。

14層以下は粘質土~粘土を主体とし、細砂、粗砂等が確認できることから、流路の堆積層と考えられる。調査区1で検出した流路とは異なる(調査区2:流路2)。

流路2は堆積層の観察により、弱い流水が流れ込む湿地状態であったものと推測される。

申請地及びその周辺は、流路や河川が形成されており、その後、それらが埋没して湿地状態となっていたものと推測される。湿地状態であった土地は、中世に開発され、耕地として利用されたものと考えられる。(木嶋)



沢遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上に位置する。周知の遺跡として、弥生時代~奈良時代、中世、近世にかけての集落跡と推定している。本市の調査では、平成元年度(1989年)に発掘調査を実施しており、奈良時代の可能性のある柱穴、中世の溝等の遺構を検出している。

本遺跡の南に位置する明楽寺跡は、平安時代の寺院跡と推定されている。本遺跡の東に位置する沢城跡は、中世・ 戦国時代の集落跡・城跡と推定されており、本市による発掘調査では、中世の掘立柱建物跡・耕地跡・溝等を検出 している。

2009 - 33 区の調査

本調査は、沢 531 - 16 において実施した。調査は、申請地内において調査区(5.2 m)を設定して行なった。 調査区の層序は、第 1 層は盛土・撹乱、第 2 層はにぶい黄橙色土、第 3 層は灰黄褐色土、第 4 層は褐灰色粘質土、 第 5 層は明黄褐色粘土(地山)である。

地山面において遺構検出を行ない、北東 - 南西方向と北西 - 南東方向の2種類の鋤溝を検出した。鋤溝は、切り合い関係にあり、北東 - 南西方向のものよりも北西 - 南東方向のものが古い。鋤溝より土師器、瓦器が出土しており、中世の耕地跡と考えられる。

第2層から第4層は土質の観察や地山面の鋤溝により耕土層と考えられ、第3層・第4層より土師器、瓦器が出土している。これらの層は、出土遺物により中世の耕土層と考えられる。(木嶋)

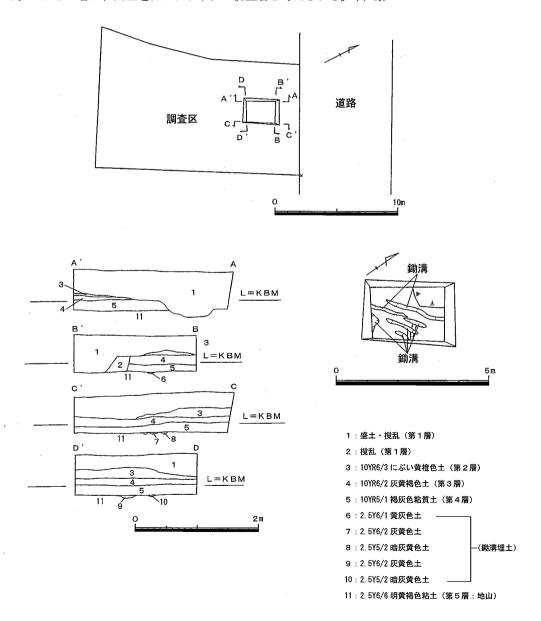


図 6 2009-33 区

秦廃寺

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上に位置する。古くより寺院跡として周知されており、付近の開墾により多数の瓦が発見されている。広隆寺(京都府)に所蔵されている『広隆寺末寺并別院記』によると、秦寺は天武天皇八年(680年)十一月に秦勝賀佐枝等によって建立されたと記されている。

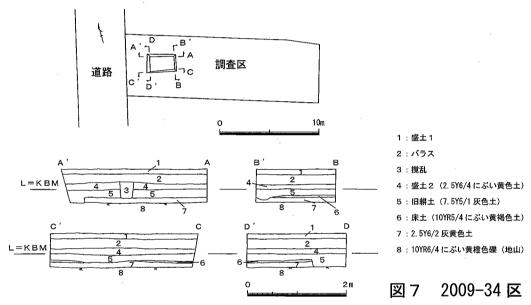
本遺跡の南西に位置する麻生中下代遺跡では、府営半田住宅の建て替え事業に伴い、大阪府教育委員会によって 平成8年度(1996年)と平成12年度(2000年)に発掘調査が実施されている。

この調査においては、古代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡等が検出された他、地山を削り出した土段状の遺構が検出されており、秦廃寺の南限と考えられる。

2009 - 34 区の調査

本調査は、半田730の一部において実施した。調査は、申請地内において調査区(6 m²)を設定して行なった。 調査区の層序は、1層が盛土1、2層はバラス、3層は撹乱、4層は盛土2、5層は旧耕土、6層は床土、7層は灰黄色土、8層はにぶい黄橙色礫(地山)である。

7層より土師器、瓦器、瓦が出土している。7層は土質の観察等により中世以降の耕土層と考えられる。7層上面において遺構検出を行なったが、遺構は確認できず、近現代に削平を受けている可能性がある。地山面において遺構検出を行なったが、遺構は確認できなかった。7層の堆積以前に開発により土地が削平されている可能性がある。(木嶋)



麻生中遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約28mに位置し、周知の遺跡として弥生時代~古墳時代・平安時代・中世の集落跡と推定される。周辺の遺跡としては、白鳳時代に創建されたと考えられる秦廃寺が北に位置し、その周辺には麻生中下代遺跡・半田遺跡が位置する。麻生中下代遺跡では7世紀前半~7世紀中期の竪穴住居跡や7世紀後半~8世紀前半の掘立柱建物跡を、半田遺跡では7~8世紀にかけての掘立柱建物跡・溝等を検出している。麻生中下代遺跡や半田遺跡は秦寺に関係する集落跡と推定される。

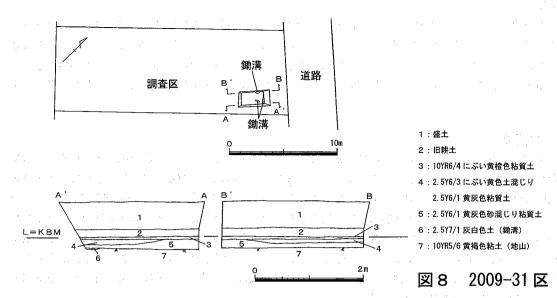
2009 - 31 区の調査

本調査は、麻生中999-7において実施した。調査は、申請地内において調査区(4.2 m²)を設定して行なった。 調査区の層序は、1層が盛土、2層は旧耕土、3層はにぶい黄橙色粘質土(床土)、4層はにぶい黄色土混じり 黄灰色粘質土、5層は黄灰色砂混じり粘質土、6層は灰白色土(鋤溝埋土)、7層は黄褐色粘土(地山)である。

4層より瓦器・須恵器が出土している。5層より遺物は出土していない。

地山面において遺構検出を行ない、東西方向と南北方向の鋤溝を検出した。鋤溝の埋土については、東西方向は灰白色シルト、南北方向は灰白色土である。鋤溝より遺物は出土していない。

4層・5層は、出土遺物や土質の観察、鋤溝の検出により中世の耕土層と考えられる。(木嶋)



地蔵堂廃寺

本遺跡は近木川左岸の中位段丘上、標高 22 ~ 23 mに位置し、平安時代後期の創建と考えられる地蔵堂廃寺として周知されている。本遺跡の北側には4世紀末の築造と推定される前方後円墳である地蔵堂丸山古墳があり、また本遺跡の西側には昭和 56 年度(1981 年)・昭和 60 年度(1985 年)の小学校の建て替え工事に伴う調査により5世紀後半~末にかけての円墳2基・方墳1基を検出している。

2010 - 10GZZH

本調査は、地蔵堂 748-1 において実施した。調査は、申請地内において調査区 $(4.5\,\mathrm{m})$ を設定して行なった。本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土 $(1\,\mathrm{k})$ 層厚 $(2\,\mathrm{k})$ の地上である。

地層の堆積状況から判断して、第2層は整地土、第3層は、撹乱層と考えられる。宅地造成時に土地の削り取りや整地が行なわれたと考えられ、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

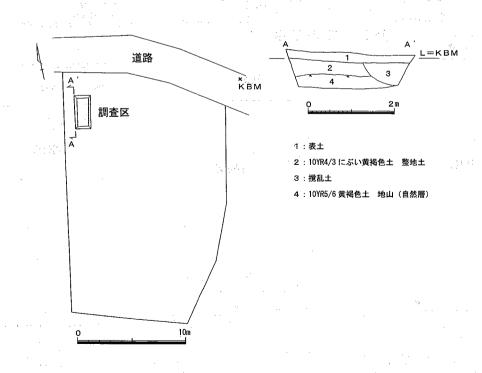


図 9 2010-10 区

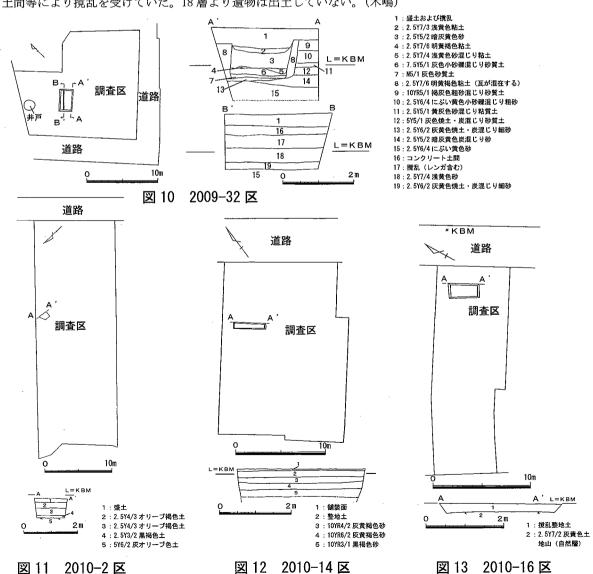
貝塚寺内町遺跡

本遺跡は、本市北西部の海岸部の標高は2~11 mに位置する。願泉寺を中心として中世末期に成立した寺内町であり、周囲に濠や土塁をめぐらせた城郭寺院跡である。願泉寺は天正年間には一時、本願寺が置かれるなど真宗寺院のなかでも特別な存在であった。本遺跡の調査では濠や土塁のほか、溝・土坑・井戸・埋甕・水琴窟等を近世後半の遺構を多数検出している。遺物は瓦・陶磁器・土器が出土し、供膳具・調理具・暖房・照明具等が多数出土している。

2009 - 32区の調査

本調査は、西町 682、674-1、681-3 において実施した。調査は、申請地内において調査区(6 ㎡)を設定して行なった。調査区東壁については、1 層が盛土および撹乱、2 層から 8 層は地下施設およびその埋め戻し土と考えられる。調査区東壁で検出した地下施設は、施設の壁となる粘土(8 層)には割れた平瓦が混在している。6 層・7 層は施設の底部と考えられる。4 層・5 層は壁材が崩落したブロック土と考えられる。3 層は砂を主体としており、瓦・陶磁器が出土している。3 層は地下施設廃絶後に埋め戻されたものと考えられる。2 層は埋め戻した後に粘土で覆い被せたものと考えられる。9 層から 12 層については、土質が硬く締まっていることから、地下施設を設けるために周囲の土を固めている可能性がある。検出した地下施設は、3 層の出土遺物により近世後半以降に埋め戻されたと考えられ、施設の性格については不明である。

13 層・14 層は焼土・炭が混入する砂であり、これらの層より遺物は出土していない。15 層は水分を多く含む砂層であり、遺物は出土していない。調査区西壁については、1 層が盛土および撹乱、16 層はコンクリート土間、17 層は撹乱、18 層は浅黄色砂、19 層は調査区東壁の13 層と対応すると考えられる。調査区西壁は、コンクリート土間等により撹乱を受けていた。18 層より遺物は出土していない。(木嶋)



2010 - 2区の調査

本調査は、中1529-6において実施した。調査区(1 m²)を設定して実施した。以下、概要を示す。

本調査区の地層堆積状況は、上層より盛土 (1、層厚 0.15 m)、オリーブ褐色砂混じり土 (2、層厚 0.2 m)、オリーブ褐色土 (3、層厚 0.25 m)、黒褐色粘土 (4、層厚 0.09 m) でその下は灰オリーブ色土 (5) の地山である。

地層の堆積状況から判断して、第2層から第4層は溝等の埋土の可能性がある。本調査地は、貝塚寺内町遺跡の 周縁部分に設けられた濠の位置する部分であり濠の可能性も考えられる。出土遺物は土師質土器・磁器染付・鉄滓 等が出土しており、江戸時代後半以降の時期のものと考えられる。

2010 - 14 区の調査

本調査は、西町 569-14、569-24 において実施した。今回の調査は、敷地内に調査区($5.2\,\mathrm{m}$)を設定して実施した。本調査区の地層堆積状況は、上層より舗装面(1、層厚 $0.05\,\mathrm{m}$)、整地土(2、層厚 $0.15\,\mathrm{m}$)、灰黄褐色砂(3、層厚 $0.15\sim0.18\,\mathrm{m}$)、灰黄褐色砂(4、層厚 $0.15\sim0.2\,\mathrm{m}$)、黒褐色砂(5、層厚 $0.2\,\mathrm{m}$ 以上)である。調査範囲が広げられず、深く掘削することができなかったため地山は確認できなかった。また、地層堆積状況から判断して遺構面は確認できなかった。第3層にはレンガ・瓦等が含まれるため近代と考えられる。第4層からは江戸時代後半の陶磁器が出土している。

2010 - 16 区の調査

本調査は、北町 456、846-8 において実施した。今回の調査は、前面道路に面した調査区(計 4.8 ㎡)を設定して実施した。

地層堆積状況は、上層より撹乱整地土(1、層厚 0.2 m)でその下は灰黄色土(2)の地山である。地層堆積状況から判断して、地層は削り取られており、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。

貝塚寺内町遺跡 願泉寺境内 (中846)

2009 - 38 区の調査

本調査は、鐘楼の基壇上面(31.36 m²)において行なった。

調査については、鐘楼の基壇上面に堆積している層厚 0.2 ~ 0.5 mの橙色土 (焼土) とにぶい黄橙色土 (炭灰が多量に混入する) を掘削した。この層は、太平洋戦争の際、空襲により焼失した鐘楼に伴う焼土と炭灰と考えられる。遺物は、瓦と炭化した木材が出土している。

橙色土(焼土)とにぶい黄橙色土層を掘削し、空襲以前の三和土と考えられる面で遺構検出を行なった。三和土 面においては礎石およびその掘形・土坑・木杭痕を検出した。

礎石については、一辺 0.7~0.8 mの平面方形の礎石を 4 基検出した。これらの礎石に伴う、一辺 1 m前後の隅丸方形の掘形を検出した。掘形は検出のみであり、遺物等は出土していない。

これらの礎石は、鐘楼の建築当時のものと推測される。また、基壇上面の西側において、土坑を検出した。土坑の規模は、長軸 1.6 m、短軸 0.9 m、深さ 0.7 mであり、土坑内には大量の瓦や礫が出土している。 1 層は土坑に瓦等を埋めた後に土坑上部を粘質土で覆ったものと考えられる。土坑より出土した瓦については、被熱した瓦が多数出土していることや埋土に焼土や炭灰が混入していることから、空襲時に焼失し、崩れ落ちた屋根瓦を基壇に設けた土坑へ廃棄したものと推測される。(木嶋)

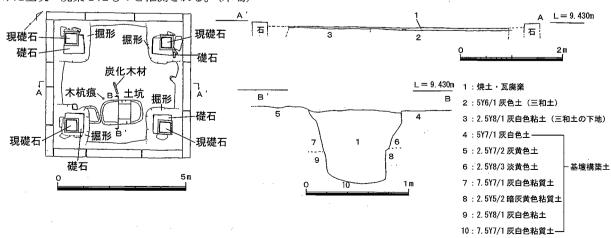


図 14 2009-38 区

2010 - 12区の調査

今回の調査は、南築地塀側溝工事部分に調査区(計5㎡)を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より盛土 (1、層厚 0.15 m)、黄褐色土 (2、層厚 0.3 m以上)である。第2層は整地土と考えられ、境内の広い範囲で確認されている。盛土下で遺構検出を実施したところ、築地塀の掘形・石組み遺構・円形土坑・落込み遺構等を検出した。円形土坑は、埋土が砂で深さ 0.3 mで表門あるいは築地塀の建設時の足場等の柱穴と考えられる。石組み遺構は、築地塀側溝底部に 2点 (0.3×0.4 m)を確認し、側溝の石組みとして側溝側に面を揃え並んだ状態の石 3点を確認した。これらの石組みは築地塀の掘り方を壊してつくられており、石組み周辺から瓦・陶磁器が少量出土しており江戸時代後半以降に造られたと考えられる。

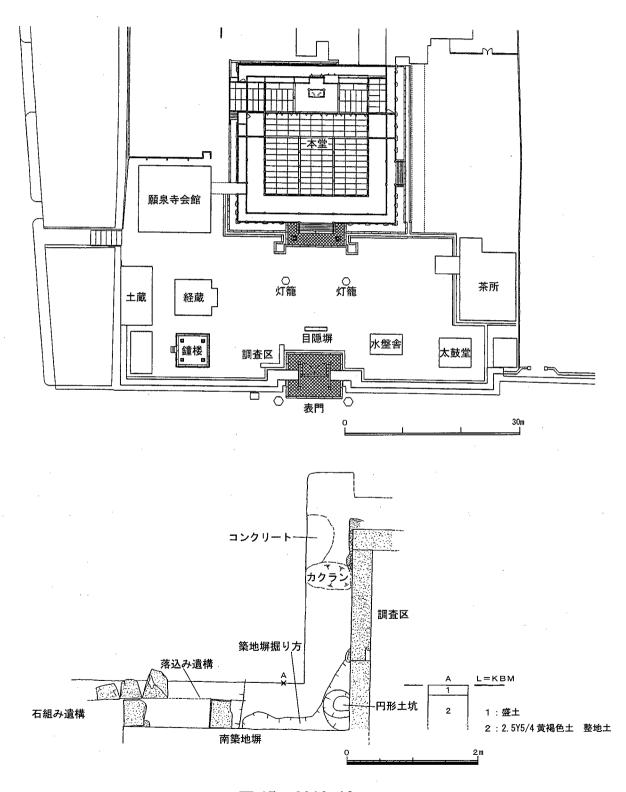


図 15 2010-12区

2010 - 15区の調査

今回の調査は、本堂前部分に調査区 (計 32 ㎡)を設定して実施した。地層堆積状況は、上層より盛土 (1、層厚 0.15 $\sim 0.2 \text{ m}$) でその下は灰黄色土 (2) の地山である。遺構は地山上面にて土坑 3 基・溝 2 条を検出した。

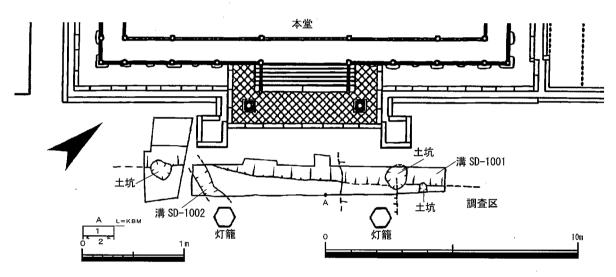
土坑:検出した3基の土坑は、埋土の状況等から本堂他の修理工事に先立ってあるいはそれ以前に植栽の移設時に掘削した穴と考えられる。遺物は出土していない。

溝 (SD-1001、溝 SD-1002)

構 SD-1001: 本溝は、検出長 20 m以上、幅 3 m以上、深さ約 2 mである。埋土は灰黄褐色土で一度に埋戻されている状況が確認できた。規模、埋土等の状況から判断して寺内町にかかわる濠と考えられる。遺物は、瓦が出土している。

SD-1002:本溝は、検出長約3 m、幅1 m、深さ1.2 mで埋土は灰白色粘土である。東西方向で、水が流れた形跡はない。遺物は瓦が出土している。

調査の結果、これまで確認されていなかった豪1・溝1条を確認しました。慶安の絵図にも描かれておらず現本堂の基礎部分まで広がる可能性があり、前身本堂より前のものと考えられる。



1:盛土

2:2.5Y7/2 灰黄色土 地山(自然層)

図 16 2010-15区

第3章 平成9年度の調査

国庫補助事業による平成9年度(1997年)の発掘調査について、概要報告書より一部抜け落ちた調査分があり、 改めてここに一覧と位置図を掲載する。

遺 跡 名	調査番号	遺跡略号	開発地	報告済(〇)
(平成9年度)	1 15-311			
1 麻生中遺跡	第1調査区	AN	麻生中 1011 - 1 他	
2 貝塚寺内町遺跡	第2調査区	JN	中 846	0
3 貝塚寺内町遺跡	第3調査区	JN	南町 1223 - 1 他	
4 貝塚寺内町遺跡	第4調査区	JN	西町 574 - 4	
5堀秋毛遺跡	第5調査区	НА	堀 738 - 9	51
6名越遺跡	第6調査区	NG	清児 1087 - 3 他	
7石才南遺跡	第7調査区	ISS	橋本 1057 - 1	
8堀秋毛遺跡	第8調査区	НА	堀 738	- 7
9貝塚寺内町遺跡	第9調査区	JN	中 825 - 1	

表 2. 平成 9年 国庫補助事業一覧

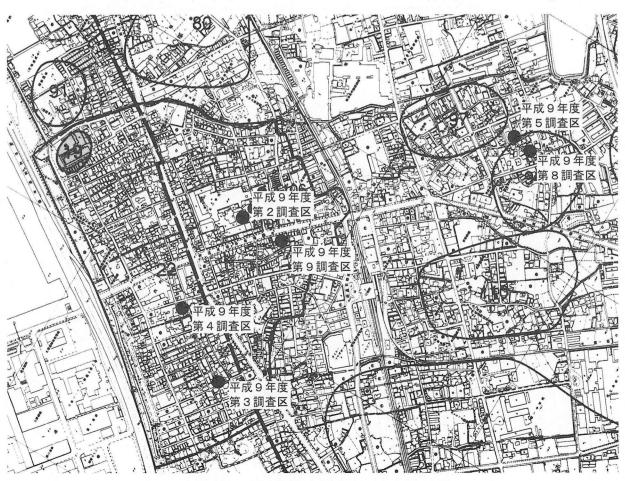


図17 調査地位置図(平成9年)

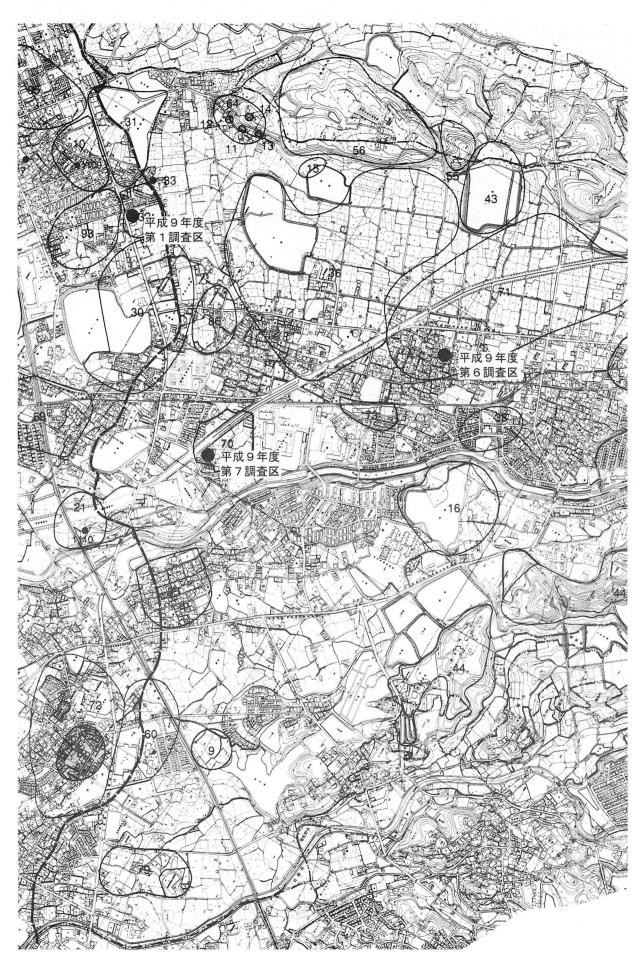


図18 調査地位置図(平成9年)

報告書抄録	
ふりがな	かいづかしいせきぐんはっくつちょうさがいよう
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要
副書名	
巻次	33
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 79 集
編著者名	三浦基 木嶋崇晴
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	〒 597-8585 大阪府貝塚市畠中1-17- 1 Tel 072-423-2151
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 31 日

所収遺跡名	所 在 地	コ- 市町村	ード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
王子遺跡	大阪府貝塚市 堤	27208	60	34 度 25 分 38 秒	135 度 21 分 30 秒	2010 0107	4.5	個人住宅
王子遺跡	大阪府貝塚市 堤	27208	60	34 度 25 分 38 秒	135 度 22 分 31 秒	2010 0122	12	個人住宅
麻生中遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	32	34 度 26 分 6 秒	135 度 22 分 25 秒	2010 0209	4.2	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 西町	27208	22	34 度 26 分 52 秒	135度21 分19秒	2010 0216	6	個人住宅
沢遺跡	大阪府貝塚市 沢	27208	3	34 度 26 分 2 秒	135 度 20 分 27 秒	2010 0219	5.2	個人住宅
秦廃寺	大阪府貝塚市 半田	27208	10	34度26 分14秒	135 度 22 分 29 秒	2010 0222	6	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 中	27208	22	34 度 26 分 54 秒	135 度 21 分 27 秒	2010 0308 ~ 0310	31.36	寺院
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 中	27208	22	34 度 26 分 52 秒	135 度 21 分 32 秒	2010 0426	1	個人住宅
地蔵堂廃寺	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	8	34 分 42 分 77 秒	135 度 35 分 38 秒	2010 1008	4.5	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 中	27208	22	34 度 26 分 54 秒	135 度 21 分 27 秒	2010 1022	5	寺院
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 西町	27208	22	34 分 26 分 54 秒	135 度 21 分 20 秒	2010 1206	5.2	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 中	27208	22	34 度 26 分 54 秒	135 度 21 分 27 秒	2010 1215 ~ 1220	32	寺院
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 北町	27208	22	34 度 27 分 5 秒	135 度 21 分 25 秒	2010 1220	4.8	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
王子遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
王子遺跡	集落跡	中世	流路2条	土師器、瓦器、瓦、須恵器	
麻生中遺跡	集落跡	中世	鋤溝	瓦器、須恵器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	地下施設	瓦、陶磁器	
沢遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器	
秦廃寺	寺院跡	中世以降		土師器、瓦器、瓦、須恵器、陶器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	礎石	陶磁器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		土師質土器、磁器染付、鉄滓	
地蔵堂廃寺	寺院跡	平安			
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		瓦、陶磁器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶磁器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝2条	· 瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世			

平成9年の調査

所収遺跡名	所 在 地	コー 市町村	ド 遺跡番号	北 緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
麻生中遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	32	34度26分 6 秒	135度22分 25秒	1997 0421 ~ 0422	6.5	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市中	27208	22	34度24分 56秒	135度21分 26秒	1997 0522 ~ 0526	14	寺院
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 南町	27208	22	34度26分 38秒	135度20分 57秒	1997 0529 ~ 0530	6	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 西町	27208	22	34度26分 55秒	135度21分 17秒	1997 0625 ~ 0627	9	個人住宅
堀秋毛遺跡	大阪府貝塚市堀	27208	94	34度26分 39秒	135度21分 47秒	1997 1002 ~ 1007	12	個人住宅
名越遺跡	大阪府貝塚市 清児	27208	71	34度25分 26秒	135度22分 32秒	1997 1128 ~ 1201	1.5	個人住宅
石才南遺跡	大阪府貝塚市 橋本	27208	70	34度25分 44秒	135度22分 1秒	1997 1202 ~ 1204	1.3	個人住宅
堀秋毛遺跡	大阪府貝塚市堀	27208	94	34度26分 41秒	135度21分 47秒	1997 1212 ~ 1216	7	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市中	27208	72	34分26分 50秒	135度21分 29秒	1998 0309 ~ 0310	11.25	個人住宅

平成9年の調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
麻生中遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	礎石3基	陶磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑2基	陶磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶磁器、瓦	
堀秋毛遺跡	集落跡	中世	溝1条	土師器、須恵器、近世陶磁器	
名越遺跡	散布地	中世			
石才南遺跡	集落跡	弥生時代		弥生土器(中期)	
堀秋毛遺跡	集落跡	中世	柱穴1基、土坑1基	土師器、近世陶磁器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	井戸1基、土坑3基	陶磁器、瓦	

図

版



1. 2009 - 27区 完掘状況

(南東より)



2. 2009 - 27区 地層断面

(北東より)



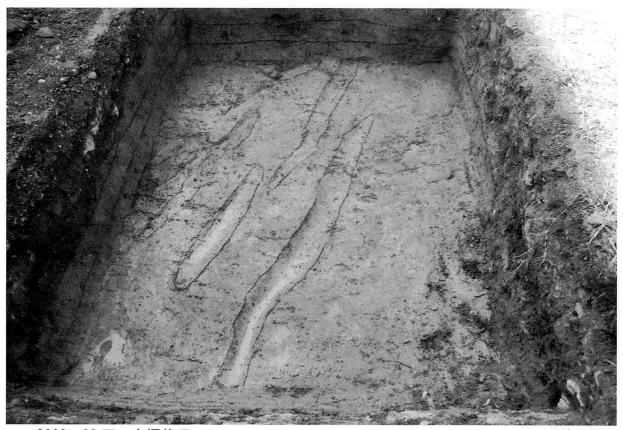
1. 2009 - 30 区 第 1 区完掘状況

(北西より)



2. 2009 - 30区 第2区完掘状況

(西北より)



1. 2009 - 33区 完掘状況

(北東より)



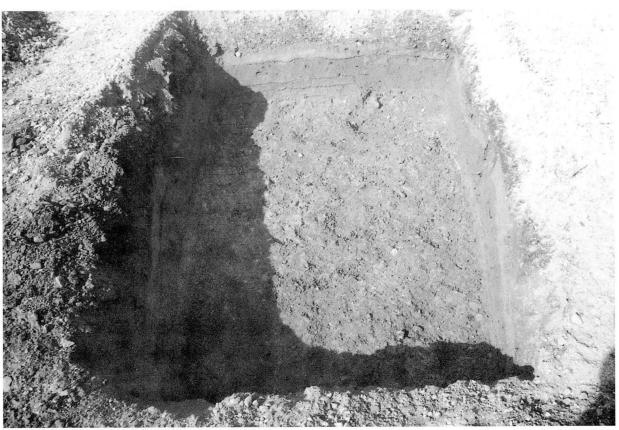
2. 2009 - 33 区 完掘状況

(北西より)



1. 2009 - 34区 完掘状況





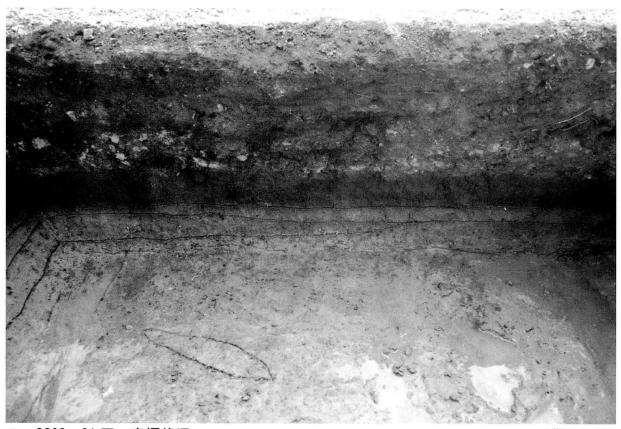
2. 2009 - 34区 完掘状況

(西より)



1. 2009 - 31区 完掘状況

(南東より)



2. 2009 - 31区 完掘状況

(北西より)



1. 2010 - 10 区 完掘状況 (西より)



2. 2010 - 10区 完掘状況

(西より)



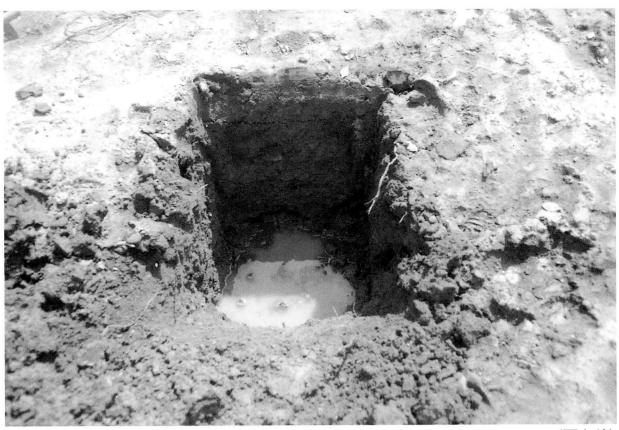
1. 2009 - 32 区 完掘状況

(北より)



2. 2009 - 32区 調査区1 完掘状況

(北より)



1. 2010 - 2区 完掘状況

(西より)



2. 2010 - 2区 地層断面

(西より)



1. 2010 - 14区 完掘状況

(北西より



2. 2010 - 14区 地層断面

(南西より)





2. 2010 - 14区 地層断面

(南西より)



1. 2010 - 16区 完掘状況

(北より)



2. 2010 - 16区 地層断面

(南より)



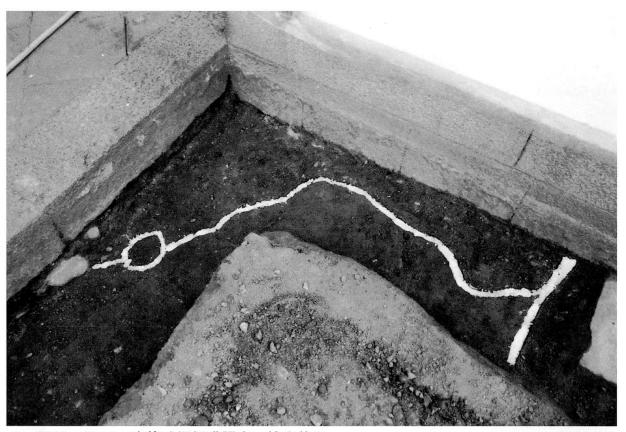
1. 2009 - 38 区 鐘楼検出状況

(南西より)



2. 2009 - 38区 鐘楼検出状況

(北西より)



1. 2010 - 12区 南築地塀側溝調査区検出状況

(西より)



2. 2010 - 12区 南築地塀側溝調査区完掘状況

(北西より)



1. 2010 - 12区 南築地塀側溝調査区完掘状況

(南西より)



2. 2010 - 12区 南築地塀側溝調査区完掘状況

(北東より)



1. 2010 - 15区 SD-1001 検出状況

(南より)



2. 2010 - 15区 SD-1001 検出状況

(北東より)



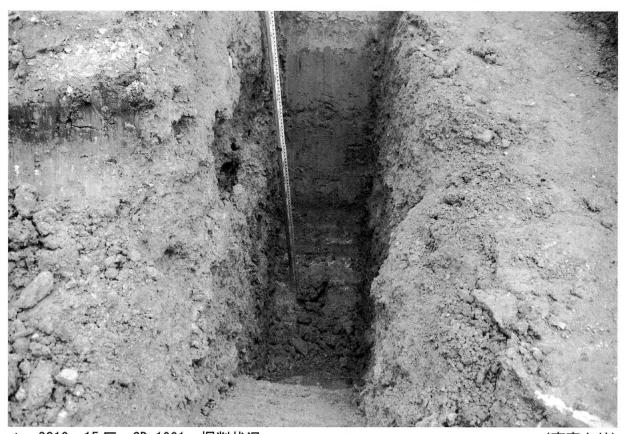
1. 2010 - 15区 遺構検出状況

(東より)



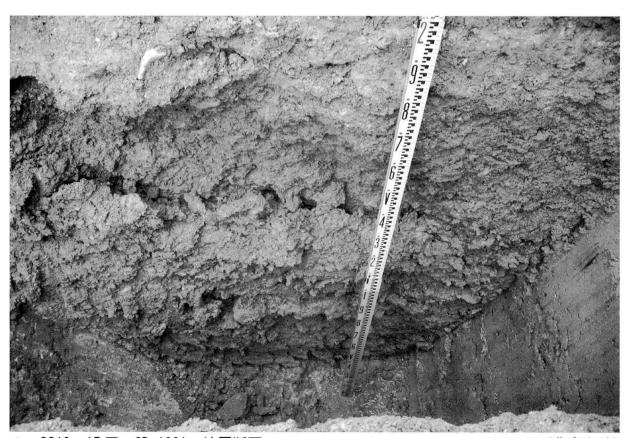
2. 2010 - 15区 遺構検出状況

(南西より)



1. 2010 - 15区 SD-1001 掘削状況

(南東より)



2. 2010 - 15区 SD-1001 地層断面

(北東より)



1. 2010 - 15区 SD-1002 検出状況

(西より)



2. 2010 - 15区 SD-1002 地層断面

(西より)

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第79集 貝塚市遺跡群発掘調査概要 33

発行日 平成 23 年 (2011) 3月 31 日 **編**· 新 貝塚市教育委員会 大阪府貝塚市畠中1丁目 17 番1号

印 刷 摂河泉文庫